

別記様式（第2条関係）

会議結果報告書

令和4年12月26日

会議の名称	令和4年度第1回志木市総合教育会議
開催日時	令和4年12月26日（月）13時30分～14時20分
開催場所	志木市役所 教育委員会会議室（中会議室2-1,2-2）
出席委員	志木市長 香川 武文（進行者） 志木市教育委員会教育長 柚木 博 志木市教育委員会教育長職務代理者 八代 豊 志木市教育委員会委員 岩澤 千恵子 志木市教育委員会委員 上野 幸子 志木市教育委員会委員 飯田 昌利 <p style="text-align: right;">（計 6人）</p>
欠席委員	なし <p style="text-align: right;">（計 0人）</p>
説明員職氏名	島村教育政策部次長兼学校教育課長 <p style="text-align: right;">（計 1人）</p>
議題	市立図書館と学校図書館のあり方について
結果	議題に沿って、意見交換を行った。
事務局職員	松永市長公室長、今野教育政策部長、島村教育政策部次長兼学校教育課長、松田政策推進課長、成田教育総務課長、桜谷柳瀬川図書館長、今学校教育課指導主事、浦野教育総務課主任、村山政策推進課主事
その他必要事項	

会議内容の記録（会議経過、結論等）

開会前に傍聴希望者の有無について確認を行った。

→傍聴希望者なし

1 開会

2 議題

市立図書館と学校図書館のあり方について

島村教育政策部次長兼学校教育課長より、市立図書館と学校図書館のあり方について説明した後、意見交換を行った。

（市長）

本市の現状として、多くの学校図書館で本の充足はされているが、全国平均と比較し、読書をする子どもが少ないという現状がある。

その要因としては、学校現場における司書教諭や市立図書館から蔵書を借りる団体貸出を十分に活用しきれていないことが考えられる。

それに対応できるように用意されているのか。また、本は調べ学習で活用されることが期待できるが、充足率を満たしていても、古い情報では、調べ学習等に活用することができないと考える。

（事務局）

毎年、予算の中で新しい本を購入する一方で、約200～300冊の本を廃棄しており、古い情報の本が残らないようにしている。

調べ学習等についても、本の入れ替えを行うことで対応できるようにしている。

（市長）

教育委員会としては、今後の方向性をどのように考えているのか。

（委員）

読書率が低いことに課題があり、団体貸出や司書教諭の活用が必要である。

さらに、学校図書館と市立図書館のネットワークを構築し、お互いの連携が必要である。

また、司書教諭や学校図書員は、経験が求められるため、学校間での情報共有を行うとともに、スキルアップできる環境を整える必要がある。

(委員)

中学校では、朝読書を行っていると聞いており、読書をする子どもが少ないという印象はなかった。

まず、読書することが楽しいという認識がなければ読書をしないのではないか。それは、幼少期からの本の読み聞かせなどが大きく影響するのではないか。

(市長)

幼少期からの読み聞かせは、本に親しむ良い機会であり、大きな影響を与えると考える。

また、団体貸出が少ない要因としては、市立図書館の蔵書情報や、活用方法が司書教諭に伝達されていないためではないか。本の種類や冊数は市立図書館も併せて十分にあり、学校には、司書教諭や学校図書員が在籍しているため、市立図書館の活用方法を考える必要がある。

(委員)

本市の学校図書員の読み聞かせを聞いたことがあるが、読み聞かせが非常に上手く、子どもたちが非常に興味を持って聞いていた。

また、学校図書員が学年の教育課程を理解して、それに沿った本を紹介していた。

こうしたことは、学校図書員の経験によるものが大きく、ノウハウや好事例の情報共有や研修等が有効であると考ええる。

また、調べ学習では、歴史や社会科学分野の本を使用することが多いと思うが、高額であり、学校図書館だけでは、予算の問題もあり、十分に揃えられていない。そのため、市立図書館の団体貸出を活用することで補うことができるのではないか。

(市長)

学校図書員が学年の教育課程を理解したうえで、本を選定しており、そのような情報の共有が必要である。

現在は、年に1回、司書教諭や学校図書員の情報共有の場があるが、今後については、情報共有の場に加え、市立図書館の蔵書の研修会や活用方法を検討する場を増やしていくことが必要である。

また、市立図書館には、十分に本があるため、学校図書館が不足している部

分を補うことができると考える。

(委員)

読書をする子どもが少ない理由として、単に読みたい本が揃えられていないのか、または司書教諭等から子どもたちに本の情報が十分に伝わっていないのか調査する必要がある。均等に本の情報は子どもに伝えられるべきであり、司書教諭等が情報共有できる仕組み作りが必要である。それが、団体貸出の増加につながるのではないか。

また、読書率の向上については、小学生と中学生が求める本をさらに分析することが必要であり、このような情報も司書教諭等間で共有されると良い。

(市長)

読書率を向上させるためには、読みたい本と学習等に必要な本を揃える必要がある。そのためにも、司書教諭等間での情報共有は重要である。

子どもたちが読みたい本を揃えるための取組は行っているのか。

または、その取組が、文学分野の蔵書率が高い要因なのか。

(事務局)

学校図書館の本の購入にあたっては、各学校の教諭や子どもたちのアンケート結果を参考にしていることから、本の種類に偏りが生じている可能性がある。

(委員)

校長先生の意識も非常に重要であると考えます。

市立図書館を活用していく必要があり、学校の司書教諭や学校図書館員は、積極的に情報共有や研修会等を行っていくべきである。

また、学校図書館員を学校間で異動させることも検討してはどうか。

そして、教育委員会が中心となって、学校図書館活用アドバイザーを入れた連絡協議会にすべきである。

(委員)

子どもたちの読書については、校長会等でも情報共有する必要がある。

骨太の学力には、読書が必要であり、読解力がないと表面的な学力になる。

読書は生きる力につながることから、読書率の向上に積極的に取り組む必要がある。

(市長)

不読率の改善や貸出数を増加させるために、学校図書館と市立図書館が連携を図り、市立図書館の職員と司書教諭、学校図書館員がつながりをつくるための研修会や情報共有の場を増やすことにより、読みたい本や必要な本が学校にある環境を整えるとともに、その情報を伝達する司書教諭、学校図書館員のスキルアップも図っていくことが必要である。

3 閉会